第5回 機械力学

剛体の重心1

宇都宮大学 工学研究科 吉田勝俊

講義の情報 http://edu.katzlab.jp/lec/mdyn/

Last update: 2018.5.19

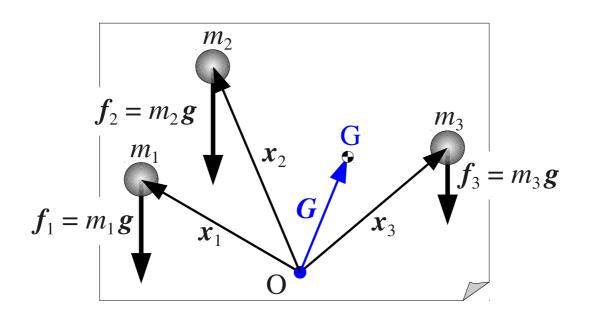
学習目標

- 離散剛体の重心
- 連続剛体の重心 (1 次元)

学習方法

全ての例題を,何も見ないで解けるまで反復せよ!

質量0の平板に取り付けた3質点



- G を壁面にピン止めする.
- G の位置を調整して,釣り合わせる.
- このときの G の位置を「重心」という.

Gにおける平板の釣合い

■ 力の釣合い方程式

■ 支点 G からの反力 $m{f}$ に対して, $m{F} = m{f} - m{f}_1 - m{f}_2 - m{f}_3 = m{0} /\!\!/$

■ トルクの釣合い方程式

$$T = (\mathbf{x}_1 - \mathbf{G}) \wedge \mathbf{f}_1 + (\mathbf{x}_2 - \mathbf{G}) \wedge \mathbf{f}_2 + (\mathbf{x}_3 - \mathbf{G}) \wedge \mathbf{f}_3 = \mathbf{0}$$

$$= (\mathbf{x}_1 - \mathbf{G}) \wedge (m_1 \mathbf{g}) + (\mathbf{x}_2 - \mathbf{G}) \wedge (m_2 \mathbf{g}) + (\mathbf{x}_3 - \mathbf{G}) \wedge (m_3 \mathbf{g})$$

$$= (m_1(\mathbf{x}_1 - \mathbf{G})) \wedge \mathbf{g} + (m_2(\mathbf{x}_2 - \mathbf{G})) \wedge \mathbf{g} + (m_3(\mathbf{x}_3 - \mathbf{G})) \wedge \mathbf{g}$$

$$= (m_1(\mathbf{x}_1 - \mathbf{G}) + m_2(\mathbf{x}_2 - \mathbf{G}) + m_3(\mathbf{x}_3 - \mathbf{G})) \wedge \mathbf{g}$$

$$= ((m_1\mathbf{x}_1 + m_2\mathbf{x}_2 + m_3\mathbf{x}_3) - (m_1 + m_2 + m_3)\mathbf{G}) \wedge \mathbf{g} = \mathbf{0} / \mathbf{g}$$

∴ トルクの釣合い条件は,♡ = ○

離散剛体の重心

■ トルクの釣合い条件:

算法 5.1 (p.45)

n 質点からなる剛体の重心 G は A

$$G = \frac{m_1 x_1 + m_2 x_2 + \dots + m_n x_n}{m_1 + m_2 + \dots + m_n} = \frac{\sum_{i=1}^n m_i x_i}{M}$$
 (5.2)

 $M = \sum_{i=1}^{n} m_i$ を全質量 (total mass) という.

演習タイム 1/3

追加の例題

p.43 の離散剛体の重心を,次の条件で計算せよ.

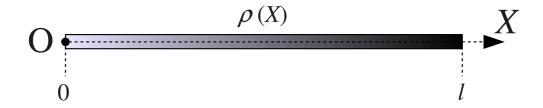
$$m_1=m_2=m_3=1,\quad oldsymbol{x}_1=egin{bmatrix} -2\1 \end{bmatrix},\;oldsymbol{x}_2=egin{bmatrix} -1\3 \end{bmatrix},\;oldsymbol{x}_3=egin{bmatrix} 2\1 \end{bmatrix}$$

離散剛体と連続剛体

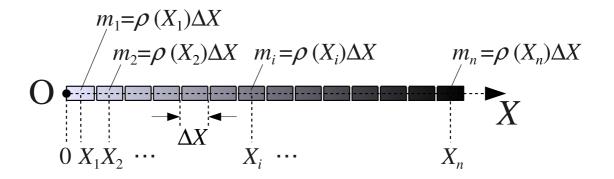
- 例題のような質量が偏在した剛体を,離散剛体という.
- 質量が連続的に分布した剛体を,連続剛体という.

1次元・連続剛体の重心 1/5

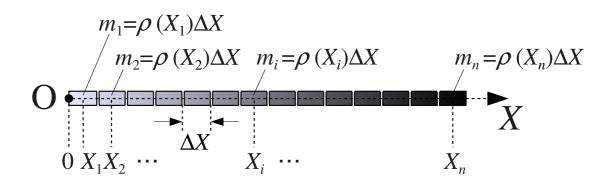
- lacksquare 場所 X に応じた密度 ho(X) [kg/m] を持つ剛体 .
 - lacksquare ho(X) を 線密度 という .



 \blacksquare 重心を求めるため,n 分割する. \Longrightarrow 幅 ΔX の小片



1次元・連続剛体の重心 2/5



- 仮定「小片内の密度は一定」
 - $lacksymbol{\blacksquare}$ 小片の位置 X_i に対して,小片の質量 $m_i=
 ho(X_i)\Delta X$
- 算法 5.1, p.45 に代入.近似的な全質量を得る.

$$M_n = \sum_{i=1}^n m_i = \sum_{i=1}^n \rho(X_i) \Delta X_{i}$$

1次元・連続剛体の重心 3/5

- 積分への書き換え・

- $lacksymbol{\blacksquare}$ 総和記号 $\sum_{i=1}^n$ を積分記号 \int_0^l に書き直す .
- $lacksymbol{\blacksquare}$ とびとびの変数 X_i を , 連続的な変数 X に書き直す .
- lacksquare 細分幅 ΔX を無限小 dX に書き直す .

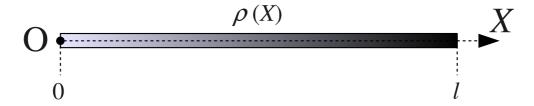
■ 全質量

$$M_n = \sum_{i=1}^n \rho(X_i) \Delta X \xrightarrow{n \to \infty} M = \int_0^l \rho(X) dX$$
 (5.3)

演習タイム 2/3

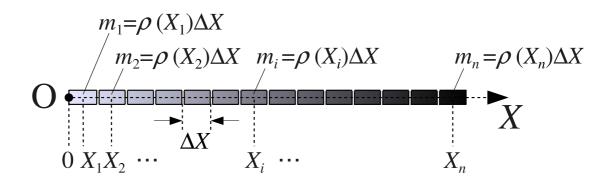
$$M = \int_0^l \rho(X)dX \qquad (5.3)$$

例題 5.1 の分問



線密度 $\rho(X) = aX$ に対する全質量 M を求めよ.

1次元・連続剛体の重心 4/5



- 仮定「小片内の密度は一定」
 - $lacksymbol{\blacksquare}$ 小片の位置 X_i に対して,小片の質量 $m_i=
 ho(X_i)\Delta X$
- 算法 5.1, p.45 に代入.近似的な重心を得る.

$$G_n = \frac{1}{M} \sum_{i=1}^n m_i X_i = \frac{1}{M} \sum_{i=1}^n X_i \rho(X_i) \Delta X_{\parallel}$$

1次元・連続剛体の重心 5/5

積分への書き換え

- $lacksymbol{\blacksquare}$ 総和記号 $\sum_{i=1}^n$ を積分記号 \int_0^l に書き直す .
- $lacksymbol{\blacksquare}$ とびとびの変数 X_i を , 連続的な変数 X に書き直す .
- lacksquare 細分幅 ΔX を無限小 dX に書き直す .

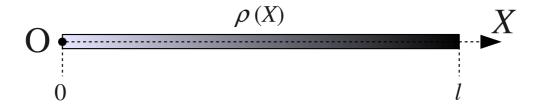
■ 重心

$$G_n = \frac{1}{M} \sum_{i=1}^n X_i \rho(X_i) \Delta X \xrightarrow{n \to \infty} G = \frac{1}{M} \int_0^l X \rho(X) dX$$
(5.6)

演習タイム 3/3

$$G = \frac{1}{M} \int_0^l X \rho(X) dX \quad (5.6)$$

例題 5.1 の分問



線密度 $\rho(X) = aX$ に対する重心 G を求めよ.